

「生まれは日米国ウィスコンシン州山田町」

高橋 ブレイティ 愛理寿

まず、あなたに聞きます。簡単な質問なんです。

少なくとも形では。「あなたは誰？」

初めて私がこの質問をされたのは、現地校で中学一年生の時。場所は、学年でおこな行ったYMCA野外教育キャンプ場。魚釣り・小舟漕ぎ・大きなキ

ャンプファイヤー・高さ十五メートルの競技ロー

プのジャングルジムなど、最高に楽しい三日間で

した。そんな時のトイレ内で、隣で手洗いをして

いた高校生のキャンプカウンセラーが、チラチラ

と私を見た後にこう話しかけました。「あなた、

て本当に可愛いね。でも、あなた、て何？」私は

この瞬間、頭が空白になりました。「私が何、て

どういう事？これ、て褒められているの？」そし

て動揺している私に彼女はこう言ったのです。「

だから、あなた、て何人？本当のアメリカ人じゃ

ないよね。」この時からです。私が他のアメリカ人

と容姿が違ちがう事が気になりだしたのは。

そして、二年前の補習校での事。クラスで女子

達と談話中、面白い話で私を含め皆が笑った。その時、女子の一人が私を指差してこう言ったのです。「見て、外人でさえ笑っているよ。」笑いは続き、とても傷つきました。そして、悟りました。私は、アメリカ人から見れば日本的すぎて、日本人から見るとよりアメリカ人的なのだ。

この時は流石に、「私は居場所を見つけられない」と、悲観的な気持ちになりました。

私は小さい頃から母にこう言われました。「いいなあ愛理寿は。生まれた時から二つの文化を持っていて。普通の人達は一つしか持っていないんだよ。」二つの文化を持つ自分って何なんだろう？

私は幼稚園の時から、現地校で日本文化の紹介を毎年行いました。日本語の読み聞かせ、着物を着て海苔巻き作りのデモンストレーション。中学校では、合唱部で「花は咲く」のピアノ演奏をし、卒先して東北大震災の募金を集め、母の故郷岩手県山田町の小学校へ届けに行きました。そうか！自分は日本とアメリカの橋渡しになれるんだと、自分の特別な存在意義の一つに気がついたのは、

これらの経験からです。

補習校では、日本から来たばかりの同級生達が、語学・友人関係などで現地校・生活面でとても苦労している話を聞くと気の毒になります。私はここアメリカで、今や世界共通語と言われる英語を日常言語とし、アメリカならではの伝統行事・文化を家族と普通に楽しんでいきます。感謝祭の伝統料理は父の指導の元、今やフルコースを作れます。

そして、中西部最大規模のシカゴ補習校で、質の高い日本語授業を受けられるのも自分が日米二つの文化を持つお陰です。補習校には、幼稚部からもう十年以上、ウィスコンシン州から往復三時間かけて通い続けています。日本語に苦手意識を持つ私が、補習校を辞めたいと泣く度に、両親は、「いい、愛理寿、あなたが補習校を卒業する時に、補習校を続けさせた私達に絶対感謝する筈だから」と送り出しました。その通りでした。今迄続けたお陰で、友達も沢山出来、日本語も上達し、十月に初めて挑戦した漢検にも合格する事が出来ました。内緒ですが、実は両親に感謝しています。

日本では、私の様な二つの国の混血者を「ハーフ」と呼びます。「ハーフ」も「外人」もどちらも否定的な意味に感じます。「ハーフ」ではなく「ダブル」と呼んで欲しいです。アメリカと日本の良い所も悪い所も知っている、ダブルだからこそ知る両国の誇り・嬉しさ・悲しさ・痛み…私の生活・人生を「ダブル」に色濃くしてくれます。二つの文化を持つ者の醍醐味です。

「私は誰？」 私は半分日本人で半分アメリカ人ではなく、私は常に、Japanese - American、日系アメリカ人です。そして、私の生まれは、「日米国ウィスコンシン州山田町」と言いたいです。

「ダブル」な自分に万歳！